

中学校美術科学習指導案

1. 題材名 「私」とヤナイハラ
2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》1960-61年
ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵
3. 実施学年 第2学年（1学級40名の設定）

4. 学習指導要領との関連

○鑑賞（1）アの（ア）

造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

○表現（1）アの（ア）

対象や事象を深く見詰め感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

5. 題材の概要

国立国際美術館（以下、「美術館」とする。）での鑑賞に先立ち、アルベルト・ジャコメッティ（以下、「作者」とする。）と《ヤナイハラ I》（以下、「対象作品」とする。）の大まかな関係を伝える。美術館では対象作品の鑑賞をとおして、表現の意図や造形的な特徴を生徒が主体的に感じ取る。

その後、教室で「(私の) ○○な人」（○○は、各自で設定する）というキーワードで、生徒と実際に関係がある人物の塑像を短時間で制作する。テーマは各自で決め、土粘土などを用いる。

前段の鑑賞および制作をとおして感じたことをもとに、作者と対象作品の関係をグループごとに話し合わせ、全体で共有する。身近な人の塑像を制作した時に感じたことも共有できると望ましい。

6. 題材の目標

○知識及び技能

- (1) ・ 造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(知識)
・ 粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して表したり、見通しをもって表したりできるようにする。
(技能)

○思考・判断力・表現力等

- (2) ・ 対象とするモデルを深く見詰め、主題を生み出し塑像で心豊かに表現する構想を練っている。(発想や構想に関する資質・能力)
・ 《ヤナイハラ I》や友人の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めることができるようにする。(鑑賞に関する資質・能力)

○学びに向かう力・人間性等

- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に鑑賞や立体表現の学習活動に取り組もうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

7. 準備物

○教員：ワークシート（シラバス、事前学習、作品鑑賞、まとめ等）、彫塑用粘土※1、粘土台※2、粘土ヘラ、保管用ビニール袋、プレゼンテーション・ソフト資料、PC、プロジェクターや電子黒板など

○生徒：教科書、資料集、筆記用具（鉛筆※3）、バインダー※4

8. 授業展開(全5時間)※5

配時	学習活動	指導内容および留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 題材全体の流れを知り、見通しを立てる。 ② 美術館鑑賞に関してワークシートを通し、具体的に理解する。 ③ 作者と対象作品の関係性について考える（予想する）。 ④ 次時の授業内容について連絡を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 全体の流れおよび題材のねらいについての説明（シラバス使用） ② 美術館鑑賞（国立国際美術館についての鑑賞マナー等）、ワークシート等について説明する。 ③ 「作者と対象作品の関係を想像してみよう。」と声かけする。 ④ 美術館で（本物の）作品と対峙し鑑賞することを確認する。
2 美術 館 鑑 賞	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 学級全員で対象作品を鑑賞する（10分）。気付いたことをワークシートに書きとめる。 ⑥ 1グループ毎（8名※6）に美術館スタッフと教員のファシリテートで、作品をより深く鑑賞する（10分×5グループ※7）。 ⑦ 他のグループは、同展示室の他の作品を鑑賞する。 ⑧ 美術館での鑑賞を踏まえ、作者と対象作品の関係について、自分の考えをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 「無言タイム」とし、多方向から作品をじっくり見るように伝える。 ○作品や他者との接触がないよう安全面を伝え、また鑑賞中は生徒の動きに留意する。 ○ワークシートは気付いたことを書くことが主目的で、枠を埋める必要はないことを確認する。 ⑥ 生徒が①の鑑賞で気付いたこと等を問いかけで引出し、情報の共有や新たな気づきを図る。 ○対話中は、そちらに集中し、追加のメモは終了後に書くよう確認する。 ○なぜそう考えた（感じた）のか作品の形、表情や醸し出す雰囲気、陰影、部位による作り込みの差等具体的な根拠を引き出すようファシリテートする。※8 ○否定形は使わず、闊達な発話がでるよう留意する。 ⑦ 展示室に入る前に、鑑賞マナーについて簡単に再確認する。 ⑧ ワークシートを見て前時の情報を基に作者と対象作品の関係を想像するよう指示する。 「なぜ」「どの部分」「どの表現」から想像したのか、具体的に書くよう指示する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 作者の作品制作歴について学ぶ。 ⑩ 作者と対象作品の関係を班※9ごとに話し合い発表する。 ⑪ 次時の授業内容について連絡を受ける。 次回は「(私の)○○な人」をテーマに塑像を制作する。 「○○」に何を入れるか、また、それに添って自分が制作したい相手を次回までに構想しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ プレゼンテーション・ソフト資料で作者の作品制作歴を簡単に説明する。 ⑩ 班ごとに話し合っ、班内で発表するように指示する。全体に向け発表できる生徒は、挙手を促し発表させる（2～3名程度）。 ⑪ 次回は「(私の)○○な人」をテーマに塑像を制作することを伝える。 ○「○○」に何を入れるか、また、それに添って自分が制作したい相手を思い浮かべさせる。 ○できるだけ複数の向きから撮った写真を準備するよう促す。（これを機会に写真撮影するのもよいかも）

4	<p>⑫ 「(私の) つくりたい人」の塑像を制作する。</p> <p>⑬ 写真を見ながら、粘土を荒づけする。</p>	<p>⑫ 「(私の) つくりたい人」の特徴や個性を考え、表現を工夫しながら制作するよう促す。 ○時間が限られているので、未完成でも構わない(事前に未完成可の指示はしない)。</p> <p>⑬ 胸像であること、本時は荒づけまででよいことを確認する。塑像は上半身のみ制作。</p>
5	<p>⑭ 塑像制作の続きを行う。</p> <p>⑮ 用具の片付けを行う。</p> <p>⑯ 挙手して「私がこの人を選んだ思い」を発表する。</p> <p>⑰ まとめのワークシートを書く。</p>	<p>⑭ 制作上の留意点は、前時と同じ。 ○発表を行うので、授業終了10～15分に制作を終えることを伝える。 ○生徒の進捗状況を観察しながら「未完成でも構わない」ことを伝える。</p> <p>⑮ 塑像は机上に残したまま、他の用具や材料を片付けるよう指示する。</p> <p>⑯ 何人かに「私がこの人を選んだ思い」を発表させる。その「思い」を表現するために工夫したところなども伝える様促す。</p> <p>⑰ 時間がなければ宿題とする。</p>

9. 評価規準

知識及び技能	思考・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>・造形的な特徴などを基に全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。(知識)</p> <p>・粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して表したり、見通しをもって表している。(技能)</p>	<p>・対象とするモデルを深く見つけ、主題を生み出し、塑像で心豊かに表現する構想を練っている。(発想や構想に関する資質・能力)</p> <p>・《ヤナイハラI》や友人の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図などについて考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めている。(鑑賞に関する資質・能力)</p>	<p>・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に鑑賞や立体表現の学習活動に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p>

【註釈】

- ※1 可塑性に富む塑用粘土が適当と考えているが、自校の実情に合わせ油粘土や紙粘土等でもよい。
- ※2 美術教室での鑑賞時のスペースや準備の利便性から15×15cm程度のダンボールを考えている。自校の実情に合わせる。
- ※3, 4 美術館で使用。展示室内は鉛筆以外の使用は不可なので気を付ける。消しゴムも床を汚すため使用を控える。
- ※5 美術館への移動時間等を考えると、校外学習や総合学習等との連携も考えられる。
例えば、午前中4時間を使って、学年全体(3クラスと仮定)を美術館に引率して1クラス2時間で実施する。他施設(隣接の大阪市立科学館等)も見学させる。
- ※6 6～8名程度が適当と考える。学級の人数等により適宜設定。
- ※7 8名×5グループ=40名で設定。学級の人数等により適宜設定。
- ※8 事前に美術館側と「ねらい」や「生徒の現状」等の打ち合わせが出来れば、よりファシリテートしやすくなる。メール等でもよい。
- ※9 美術館鑑賞のグループと同じでなくてよい。各班4～6名程度

指導案作成：澁谷雅子、島筒格、松原悠香、安永佳世、吉田貞子